

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和6年6月28日現在

今月の重点活動

■スマート農業 岐阜地域スマート農業推進会議を開催

6月28日、JAぎふ本店において、岐阜地域スマート農業推進会議を開催した。当会議は、岐阜農林事務所農業普及課長をリーダーとして、岐阜地域の市町農政担当課長およびJAぎふ営農部長、岐阜県農業共済組合岐阜支所長により構成されており、管内へのスマート農業の普及推進を目的に活動を行っている。

会議では、「岐阜県スマート農業推進計画（第2期）」に基づいたスマート農業機器の導入状況や、スマート農業技術の研修・実演会の実施状況、スマート農業技術の活用に関する農業普及指導員の活動の実績と計画について報告するとともに、管内農業におけるスマート農業の推進方向について協議を行った。作目や導入目的に合う、有効性のあるスマート農業機器等の積極的な普及推進に向けて、関係者が協力していくことを再確認した。

農林事務所では、管内農業におけるスマート農業技術の普及推進に向けて、関係者と連携しつつ、情報提供や研修会等を行っていく。



【スマート農業推進会議の様子】

(地域支援第二係)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜地域就農支援協議会 令和6年度第1回新規就農担当者会議を開催

岐阜地域就農支援協議会は6月6日、各市町の新規就農担当者を集めた会議を開催した。同協議会は岐阜地域における新規就農者等の育成確保を目的に設立され、会長はJAぎふ営農部長、JAぎふ営農企画課が事務局を務めている。

「岐阜地域の市町が連携して、新規就農について話し合える機会があるとよい」との関係機関連携の充実を求める市町担当者の声を受けて、農林事務所の働きかけにより開催した。

当日は、農林事務所から令和5年度の岐阜管内における就農相談状況、市町等と連携した就農支援会議支援の実績について報告を行った。各市町からは就農支援の現状と課題について報告がなされ、ぎふアグリチャレンジ支援センター担当者からの情報提供の後、出席者による意見交換が行われた。

次回担当者会議は10月頃に開催予定であり、農林事務所は引き続き、就農相談から就農研修、営農定着まで一貫した就農支援が行われるよう、同協議会活動の活性化と各市町で行われる就農相談や就農計画づくりを支援していく。



【就農相談の様子】

(地域支援第一係)

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■ぎふ清流GAP 国際水準GAP評価規準に係る評価ポイント現地研修会

ぎふ清流GAPは、今年度から改正され国際水準GAPとして運営されることとなった。そこで6月11日、ぎふ清流GAP推進センターの主催により、岐阜市の全農岐阜新規就農者研修所（いちご）で標記の研修会が開催された。

始めに、新たに必要とされる書類、遵守規準の遵守等について説明が行われた。今回の改正では農場管理で6項目を新規追加、内容の追加43項目等であるが、追加で必要とされる書類は相当多くなる。



【研修会の様子】

続けて研修所内の現地検討が行われた。研修所は、いちご輸出に向けて ASIAGAP を認証済であり、秤や出入口カーテン設置、予冷庫内はスリッパ履き替え、手指消毒のアルコールも「食品衛生法適合」の商品に変更、蛍光灯は「飛散防止対策済み」のものに交換、農薬保管庫は転倒防止用の紐を追加設置など、ほぼ国際水準に適合した施設となっていた。

今回の研修会を踏まえて農林事務所では、今年度更新となる2件の対象者への支援を皮切りに、改正清流GAPへの更新を含めたGAPの取組みを進めていく。

（地域支援第三係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■有機栽培実証 JAぎふ有機栽培実証ほ収穫調査支援

J Aぎふが各務原市に設置している有機栽培実証ほにおいて、6月10日にスイートコーンの収穫調査を実施した。

昨年の実証では、アワノメイガの被害が大きかったため、今年は昨年より約1か月早めた3月4日に播種を行い、有機栽培で使用可能な殺虫剤で防除を行うことで、被害を大幅に減らすことができた。

このほか各務原市での取組みとして、さといも部会において基肥に堆肥ペレットを用いた施肥体系の実証を実施している。

今後、有機栽培実証ほは、J Aぎふが岐阜市に設置する「有機の里」に場所を移し、有機栽培農産物の生産、技術の実証や担い手育成の取組みが計画されており、引き続き農林事務所は支援を行う予定である。



【スイートコーンの調査サンプル】



【さといも実証ほ調査】

（地域支援第二係）

■守口大根 伝統野菜「守口大根」の種子確保

岐阜市則武地区周辺は、古くから守口大根の産地として知られているが、現在は4戸の農家が出作により各務原市及び笠松町にて栽培を行っている。守口大根の種子は岐阜愛知守口大根生産連絡協議会により維持管理されており、栽培農家自らが共同で2年ごとに種子生産を行い確保している。

令和6年作は母本選抜後の種子生産ほ場を岐阜市西郷地区に設置しており、6月4日に栽培農家と関係機関の計10名で、穂をほ場にて収穫した。現在、収穫物はJAぎふ方県カントリーエレベーターにて乾燥中である。今作は種子の必要量が確保できるものの計画よりも収穫量が少なかった。他の春野菜と同様に2月の異常高温の影響が大きく、株ができるまま開花に至ったことが減収の原因と考えられた。今後、乾燥を終了した8月に脱莢を行った後、愛知県の種苗会社に選別を依頼し種子を確保する予定としている。

農林事務所は今後もJAぎふや連絡協議会事務局を務める岐阜市役所とともに種子生産活動の支援を行っていく。



【収穫作業の状況】

(園芸産地支援第一係)

■冬春トマト 新害虫「トマトキバガ」を出さない栽培管理を確認

本巣市の糸貫トマト振興会は8戸の農家で構成され、冬春トマトを共同出荷している。農林事務所では、岐阜県病害虫防除所から「トマトキバガ(※)」に関する病害虫発生予察特殊報が発表されたことを受け、トマトキバガに関する情報提供と対策の徹底を呼び掛けた。トマトキバガの特徴及び生態や食害の様子、登録がある農薬について説明するとともに、防虫ネット等の侵入防止対策の確認、食害の有無等の観察などについて、注意喚起を行った。



【トマトの品質を確認】

また、糸貫トマト振興会以外のトマト農家に対しても、巡回や資料配布により、病害虫対策の徹底を啓発した。

農林事務所管内ではまだトマトキバガの発生は確認されていないが、その他の病害虫対策を含めて、トマトの安定生産支援を継続していく。

※トマトキバガ：南米原産の外来害虫。主にナス科植物を加害する。

(園芸産地支援第一係)